

The 22nd MUSIC FESTIVAL
Argerich's Meeting Point® in
Beppu 2022

Music and SDGs – New Paths

第22回 別府アルゲリッチ音楽祭公式報告書

抜粋

MOA美術館 開館40周年記念

熱海座

マルタ・アルゲリッチ & 人間国宝 大槻文蔵 スペシャル公演 バッハ・パルティータ×能舞の饗宴

日時／2022年5月31日(月) 16:00～17:45

会場／MOA美術館能楽堂(静岡県熱海市)

出演／マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)、大槻文蔵(仕舞・能舞)、辰巳満次郎(演出・解説)
大宮臨太郎(ヴァイオリン)、坂口弦太郎(ヴィオラ)、市 寛也(チェロ)

PROGRAMS

L.v. ベートーヴェン
3つのピアノ四重奏曲 第3番
WoO36-3 ハ長調

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)、
大宮臨太郎(ヴァイオリン)、
坂口弦太郎(ヴィオラ)、市 寛也(チェロ)

仕舞「邯鄲」 大槻 文蔵

武富康之(地謡)
大槻裕一(地謡)
稲本幹汰(地謡)

解説 辰巳 満次郎

J.S. バッハ
パルティータ 第2番 BWV826
ハ短調 ―ピアノ独奏と能舞―

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)、大槻文蔵(能舞)

5月31日の熱海での公演はコロナを経験した今、日本の社会や世界中に起こっている変化の中で、日本の伝統文化「能」と西洋のクラシック音楽の交流を通して、精神世界の大切さを考えてみたと思いました。

そして国内外へここ日本から発信することで、日本の精神文化、クラシック音楽の本質を感じていただけるのでは、と思ったのです。そのことがこの企画の動機でした。この公演が実現できたのはMOA美術館とのご縁から始まりました。

内田館長から辰巳満次郎先生をご紹介いただき、人間国宝大槻文蔵先生のご協力をいただけることとなりました。全ての演出をお引き受けいただきました辰巳先生のご尽力なしには、この公演は実現しませんでした。

日本が近年忘れ去っていく精神的な世界を、人がもつあらゆる感情一喜び、哀しみ、怒り、苦悩、慰めーを静寂な能における表現と西洋のバッハの音楽が融合し、表現されていく様は、あらゆる人類が肌の色、宗教、政治、文化を超越してゆける可能性をも示したように感じています。

さまざまな感情を経て大槻先生が演じられた魂がピアニストの奏する音楽を称賛し、喜びと共に去っていく様は、他者に対する尊重と思いやりを感じさせるものでもありました。

謙虚さ他者を思う思いやりこそ、日本から、だからこそ発信をする意味があるとも思いました。

クラシック音楽の父と云われているバッハは「音楽は言葉の必要としない共通言語だ」と語り、音楽の本質は「魂から魂へ」と伝えられるものだ、と語っています。ベートーヴェンは自身が苦悩しながらも、音楽に救われ、今も多くの人々がその音楽に励まされています。

日本が持つ繊細な中にも強さを秘める精神世界を表す能楽も、多くの人々の努力によってその精神が引き継がれていますが、日本の誇りとして知る機会が増えていくことも願っています。

自分たちの住む国への誇りや思考することを忘れ、軽薄な社会風潮がさまざまなものを壊していくことへの警鐘は、このような試みを通して鳴らし続けなければならない、と改めて強く感じました。

映像作家ステファニー・アルゲリッチによって、この公演はドキュメントも制作され世界へ発信されます。

多くの皆さまにご覧いただきたいと願っています。

公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団 副理事長
別府アルゲリッチ音楽祭 総合プロデューサー

伊藤京子



© 池上直哉



大槻文蔵

シテ方観世流能楽師



辰巳満次郎

シテ方宝生流能楽師

アルゲリッチさんとの共演は誠に感慨深く、大変記念すべき舞台でございました。

この度の共演は、日本の伝統や芸術文化を後世につないでいくまたとない機会となり、「日本の美」と「クラシック音楽」の融合が世界から向けられることを願っています。



本当に素晴らしくて、半年以上前から演出を考え、大槻文蔵先生にご相談し、一緒に稽古を重ね作り上げました。新作は思いつき、発見があるので毎回変化し進化させてきました。昨日から本番を入れて3回やりましたが、3回目の本番が本当に素晴らしく、大槻先生の舞、アルゲリッチさんの演奏を3回拝聴する中でもやっぱり本番は違うと実感しました。特にお二人の感性の鋭さが素晴らしい。細かいところまでしっかり感じて見ていらっしゃる。そして興味を持たれる。そういった点に感動しましたし、学ばせていただきました。ジャンルを超えた融合というのは、コンセプトがちゃんとなないとやる意味がないと思います。今日は新しい「アート」が生まれたなという思いです。ありがとうございました。



© 池上直哉



第22回別府アルゲリッチ音楽祭
オフィシャル・フィルム・メーカー／プロデューサー

ステファニー・アルゲリッチ

「熱海公演を取材して」



熱海では、大槻先生と母の共演を見るという大変素敵な時間を過ごしました。バッハと能を一つのステージで公演することは不自然だと考える人もいるかもしれませんが、この二つの芸術のかたちと個性が互いに刺激しあって自然に結合していく様を見ることは、本当に素晴らしいことでした。真の魔法が起こったのです。大変良いクルーと、舞台裏で猫のように動き回って、そこそこで起こる小さな貴重な瞬間を捉える技を持った撮影監督にも恵まれました。この特別な経験を私の短編映画で伝えることができるようベストを尽くします。皆さんにお見せするのを楽しみにしています。

